

## 豊かな心をはぐくむ道德の時間の指導法に関する研究 - 書くことによる自己の道德的価値の自覚を通して -

広島市教育センター主任指導主事 堂 道 和 雄  
指 導 主 事 谷 田 増 幸  
指 導 主 事 清 水 剛

家庭や地域社会における人間関係の希薄化や情報通信機器等の普及による直接的な会話の減少などが指摘される中、子どもたちが他者を思いやるあたたかい気持ちをもつことや、望ましい人間関係を築くことなどが難しくなったりすることなどの現状から、「豊かな心」をはぐくむことは、喫緊な課題である。

子どもたちの「豊かな心」をはぐくむことの根幹として位置付けられている道德の時間において、自分の思いや気持ちを表出したり、話し合うための基礎資料としたり、気持ちの変容を振り返ったりすることなどを目的として書く活動を学習の場に設定することが多いが、十分に機能しているとは言えない。

そこで、豊かな心の育成に繋がるような教育活動の在り方について、書く活動に視点を当てた「道德の時間」の指導法について研究を進めていくことにした。

その結果、書く活動を指導過程において適切に位置付けることによって、「資料を基にしたねらいとする道德的価値の追求」や「自己を振り返ることによる道德的価値の自覚」に迫ることができた。

研究のキーワード 豊かな心 道德の時間 書く活動

# 目 次

	頁
豊かな心をはぐくむ道德の時間の指導法に関する研究	
問題の所在 .....	45
研究の目的 .....	45
研究の方法 .....	46
1 基礎的研究 .....	46
2 実践的研究 .....	46
研究の内容 .....	46
1 基礎的研究 .....	46
(1) 「豊かな心をはぐくむ」とは .....	46
(2) 学習指導要領解説における「書く活動」の位置づけ .....	46
(3) 道德の時間のねらいと指導法の工夫 .....	47
(4) 道德の時間に「書く活動」を取り入れることの授業仮説 .....	51
(5) 道德の時間の指導過程と「書く活動」の位置づけ .....	51
2 実践的研究 .....	53
(1) 実践事例 1 - 小学校(第5学年) - .....	53
(2) 実践事例 2 - 中学校(第1学年) - .....	62
研究のまとめ .....	71

## 問題の所在

今日の科学技術の進歩と経済の発展は、情報化・国際化・価値観の多様化など、大きな社会の変化をもたらしてきている。このような状況において、子どもを取り巻く環境も大きく変化し、家庭や地域社会における人間関係の希薄化や情報通信機器等の普及による直接的な会話の減少などが指摘されている。さらに、社会性や自己責任の観念が十分にはぐくまれず、社会で守るべきルールが、子どもにとっても必要なことであるという認識が身に付いていなかったり、他者を思いやるあたたかい気持ちをもつことや、望ましい人間関係を築くことなどが難しくなったりしている。

このような現状の中、中央教育審議会答申（平成17年10月26日）「新しい時代の義務教育を創造する」第1章、「教育の目標を明確にして結果を検証し質を保証する」において、「義務教育の目的は、一人一人の国民の人格形成と、国家・社会の形成者の育成の二点に集約することができ、この両者の調和のとれた教育を実現することが必要である。このため、学校では、子どもたちに「確かな学力」として基礎的な知識・技能と思考力、創造力などを育むとともに「豊かな心」、「健やかな体」を培い、これらをバランスよく育成することが求められる。」と述べている。

これらのことを鑑みるとき道德教育は、「豊かな心」をはぐくむために大きな役割を担っていると考えられる。その中でも道德の時間は、道德の時間以外における道德教育と密接な関連を図りながら計画的、発展的に指導することによって、それらを補充、深化、統合し、道德的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成することを目指すものである。したがって、道德的価値の内面化を図る道德の時間の指導について改善・充実を図ることは、子どもたちの「豊かな心」をはぐくむことの根幹に位置付けられると考える。

しかしながら、各学校における道德教育の現状

を見ると、優れた実践も見られる一方、目的やねらいも曖昧なまま指導計画を立てたり、単に内容項目を提示するにとどまるような指導を行ったりするなど、課題点も少なくない。道德的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、道德的実践力を育成することを目指すためには、指導の工夫や改善を図る必要があると考える。

その際、道德的価値の内面化を図る道德の時間の指導について考えるとき、言葉の重要性について考えることにしたい。

言葉を用いる手段としては、「書く」「話す」などがあげられるが、「書く」ことについては、自分の思いや気持ちを表出したり、話し合うための基礎資料としたり、気持ちの変容を振り返ったりすることなどを目的として学習の場を設定することが多い。しかし、書く活動が学習の場面において十分機能しているとは言えない。

そこで、本研究は、道德の時間の指導において、書く活動に着目し、その改善・充実の方策を探ることとする。

## 研究の目的

子どもたちの「豊かな心」をはぐくむために、道德の時間の指導における書く活動に着目し、そのことに関する基礎的研究を行い、基礎的研究の内容に基づいて小・中学校における実践を行い、実践内容の分析・考察を通して、道德の時間の指導について改善・充実の方策を探る。

## 研究の方法

### 1 基礎的研究

道德の時間における書く活動の意義、学習過程での位置づけ、効果的な指導方法等を先行研究や文献などから具体化する。

## 2 実践的研究

小学校1校，中学校1校の研究協力校において，道徳の時間における書く活動に着目し，授業実践を通して，具体的な方策の有効性について明らかにする。

### 研究の内容

#### 1 基礎的研究

##### (1) 「豊かな心をはぐくむ」とは

「豊かな心」をはぐくむための学校教育としてのアプローチは，学校教育活動全体を見据えて，さまざまな角度から考えることができるが，その中核となるのは道徳教育であり，その道徳教育の要として，道徳の時間が設けられていると考える。

この道徳の時間は，道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によって深化，補充，統合し，道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め，道徳的実践力を育成することをねらいとしている。

道徳の時間のねらいを達成するために，これまで様々な指導の工夫がなされているが，その際，自分の思いや気持ちを整理したり，表出させたりするためにワークシートを利用することが多い。ワークシートに自分の考えや思いを表出することは，道徳的価値に気付くうえで大変重要な役割を果たすものとする。しかし，記録に残すことだけに終始することが多く，道徳の時間のねらいを達成するための効果的な活用が十分でない場合が多く見られる。

そこで，本研究は，書く活動に視点を当てて，「豊かな心」をはぐくむための指導の改善・充実の方策を探ることとする。

##### (2) 学習指導要領解説における書く活動の位置付け

『小学校学習指導要領解説 道徳編』において，「第4章第4節 2 心に響き心が動く指導法の

創意工夫」の中で，指導方法の工夫の例として指導の場面ごとに次の7項目が示されている。

- (1) 学習への興味の喚起や動機付けの工夫
- (2) 資料の活用の工夫
- (3) 発問の工夫
- (4) 表現の工夫
- (5) 話合いの工夫
- (6) 説話の工夫
- (7) 道徳ノートの工夫 (下線筆者)

この中で書く活動に関連する記述があるのは，「(4) 表現の工夫」と「(7) 道徳ノートの工夫」である。

「(4) 表現の工夫」では「学習シートを手紙形式や漫画で吹き出し形式にして書く工夫」と記しており，「(7) 道徳ノートの工夫」では，「児童自らが考えを深めたり，友達や教師，保護者と意見交換をしたり，今までの学習を振り返ってみたり，その都度気付いたことや調べたことなどについてメモをとったりすることができる道徳ノートを活用することによって，児童の道徳学習を継続的に深めていくことができる。」と記してある。

また，『中学校学習指導要領解説 道徳編』においては，「第4章 第4節 1 学習指導過程の創意工夫」に次のように学習指導過程の各段階を示し，多様な工夫の例が示されている。

- (1) 導入の工夫
- (2) 展開の工夫
  - ア 資料提示の工夫
  - イ 発問構成の工夫
  - ウ 生徒が主体的に人間としての生き方を追求し，思考を深める工夫
- (3) 終末の工夫 (下線筆者)

この中で書く活動に関連する記述があるのは，「(2) 展開の工夫 ウ 生徒が主体的に人間としての生き方を追求し，思考を深める工夫」と「(3) 終末の工夫」である。

「(2) 展開の工夫 ウ 生徒が主体的に人間としての生き方を追求し，思考を深める工夫」で

は「自分の考えをまとめて書く活動など、授業形態に工夫を加え、生徒が生き生きと活動し、主体的に考えを深めることができるようにすることが、道徳の時間の指導効果を高めることにつながる。」と記してあり、「(3) 終末の工夫」では、「一般的には、生徒の感想を発表させたり書く活動を取り入れたり、教師が説話をしたり、補助的な資料を提示したりして生徒の考えを整理することなどが考えられる。」と記してある。

ここに示したように、道徳の時間における書く活動は、道徳の時間のねらいを達成する手段として効果的に活用できる一つの方法であるが、実際に、各学校での道徳の時間の実践を見ると、書く活動の意義や、指導過程における位置付けが明確でないまま指導を行ったり、児童生徒に書かせた

ものが活用されないままになってしまったりするなど、児童生徒の思いが十分披瀝できない状況も見られ、指導の工夫改善を図る必要がある。

### (3) 道徳の時間のねらいと指導法の工夫

道徳の時間の目標は、学校の教育活動全体を通して行う道徳教育の目標をそのまま受け継いでいる。前述したように、道徳の時間は、道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力を育成することをねらいとしている。

品川利枝は『中学校 道徳授業の新機軸』で次のように整理している。

#### 状況把握と状況分析

問題に直面した時、個々が現状を認識する能力が培われていれば、より道徳的な判断のもとで問題解決ができると思われる。道徳の時間の中でも、資料をもとに、その中で起こっている場面・事柄の状況を把握したり、状況を分析したりすることが必要である。

#### 自己内対話

道徳の時間における内的な活動の中心は「自己内対話」である。具体的な場面で価値判断や価値選択を迫られるとき、自分の価値判断や価値選択が妥当かどうか見直すとき、自分の価値判断や価値選択が社会や友達とどのような関係にあるか比較検討するときなどにおいて、自己内対話が始まると考える。道徳の時間においては自己内対話を意図的に引き出す場の工夫が必要である。

#### 社会的相互作用

自他の内容を比較しながら、自分の見方や考え方を見直すときに、時間的な経過の中で、漠然とではあるが一定の見方や考え方が学習者たちによって作り出される。学習者は知らず知らずのうちに、この全体的なコンセンサスを読み取り、それを自分の中に取り入れていく。このように、学習者に大きな影響を与えるものとして、学びあう仲間との相互作用が必要である。

(参考：中学校 道徳授業の新機軸 品川利枝著)

そこで、道徳の時間のねらいを達成するために、状況把握と状況分析、自己内対話、社会的相互作用の三つの視点に基づき、書く活動の工夫改善を図ることで、道徳的実践力の育成を目指していきたい。

品川の述べている三つの視点である状況把握と状況分析、自己内対話、社会的相互作用の考え方を、道徳的価値と学習活動との関連で整理してみると、次のようにまとめることができる。

### 道徳的価値との関連

- ・ 書く活動によって、道徳的価値に係る文脈(コンテキスト)や子どもが大切にしようとしている道徳的価値が言語を通して、多様な形で表出される。【状況把握と状況分析】
- ・ 書く活動を通して、自分の見方や考え方を再構成することができる。【自己内対話】
- ・ 書く活動に基づいた他者との対話により、道徳的価値に係る見方・考えについて新たに気付いたり、深めたりすることができる。【社会的相互作用】

### 学習活動との関連

- ・ 子ども自身がもっている道徳的価値観の顕在化として書く活動を設定する。【状況把握と状況分析】
- ・ 顕在化させた道徳的価値観の再構成として書く活動を設定する。【自己内対話】
- ・ 再構成した道徳的価値観の客観化として書く活動を設定する。【社会的相互作用】

また、深山かつ子は『小学校 実践力を育てる道徳授業』の中で、道徳の指導における書く活動の意義を、児童生徒の立場、教師の立場の二つの視点から整理し、効果的な指導法を探っている。その中で、書くことを指導に生かすことができるかどうかについては、教師の発問に依るところが大きいと述べている。また、1単位時間のどの場面において、どのような発問から書く活動を取り

入れるか、十分に検討し、計画する必要があると述べている。また、板書計画と書く活動の関係性についても触れており、文書、あるいは記号や絵などで表現させる時間と板書する時間を配慮する必要性について述べている。

併せて、児童、教師それぞれの立場における書く活動の意義については、次のようにまとめている。

### 書く活動の意義

#### 児童の立場から

##### 自分を見つめ直す機会を持つ

話し合いながらも自分の経験を思い出し、自分を振り返ることはできるが、発言の苦手な児童や聞き手になりやすい児童が書くことによって「自分がもしその立場だったらはどうするだろうか」など、自分をある程度客観的にとらえて考えることができる。

##### 自分の考えや態度をはっきりさせることができる

漫然とした考え方や態度のままでは、授業のねらいを達成することはできない。授業のねらいを達成するためには、自分の考えはどうか、どう表現することが的確なのかなど、自分の考えを整理することが必要になるが、書くことで可能になると考える。また、書くことによって意志決定や積極的な発言にもつながり、安心して話し合いに参加できることにもなる。さらに友達や資料の中の人物などと考え方や態度を比較することが可能になる。

##### 自分の内面をのぞかせ、ホンネを出すことができる

言葉で表現しにくいことも書くことで表現できることもあり、自我を解放することになる。

##### 自分の考え方の変化や成長のあとを振り返る

同じ価値や関連する価値に対する自分の考え方が、半年前、三ヶ月前とどう変わったか、それはなぜかを考える手がかりになる。

## 教師の立場から

一人一人の児童の経験や考え方にふれ、個別的な指導につなげることができる

話し合いの段階では児童自身が学習内容を理解し、自分の意志決定ができたかに見えた児童の心情面での不安や葛藤などを書く活動をとおして発見することができたり、考え方の深浅をとらえたりすることができる。また、ノートに朱書きすることで個別的な助言を与えることに繋がる。特に、発言の少ない者に対して有効である。

話し合いが中心になりやすい授業に変化を与えるとともに、発言に主体性を持たせることができる

よく発言する数名の児童が主体となる授業では、発言しない児童の中には、自分としての意見や考えをもたないまま授業を終わる場合も少なくない。

そうした授業にならないようにするために、児童が個々に自分なりに考え感想なり関心なりを書くことで発言に主体性が出てくると考える。机間指導を行いながら書いている内容を確認し、励ましたり助言したりすることを通して、次の話し合いの時に児童が積極的に発言できるようにすることも大切である。

(参考：小学校 『実践力を育てる道徳授業』 深山かつ子著)

深山の述べている教師の立場における書く活動す指導，評価の観点の明確化の三つの視点で整理すると、次のようなまとめ方が考えられる。

- 一人一人の子どもの思いや考え方を把握し、個別的な指導につなぐことができる。  
個に応じた指導
- 発言力を持った子どもを中心とした話し合いになりやすい授業に変化を与え、多様な子どもの思いや考えを取り上げることができる。個を生かす指導
- ねらいにせまる書く活動を指導過程の中に適宜組み入れることにより、道徳の時間における評価の活動を充実させることができる。評価の観点の明確化

書く活動を中心にした道徳の時間は、「自己内対話」を繰り返しながら、自分の中の道徳的価値を「顕在化」し、「状況把握と状況分析」をすることを通して友だちとの「社会的相互作用」を基にして自分の中の道徳的価値を変容させ、自らの価値意識を補充し、深化し、統合していく時間であると考えられる。

書く活動を中心にした道徳の授業を行う際、指導過程の中で、書く活動をどのように位置付

けるか検討する必要がある。そこで、指導過程における学習の価値付けについて考えてみたい。

道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力の育成をめざして、瀬戸真は、指導過程の各段階における学習の価値付けについて、図1のように導入部分、展開部分、終末部分における道徳的価値に関する基本的な考え方をモデル化することで、道徳的な価値の位置付けについて示している。

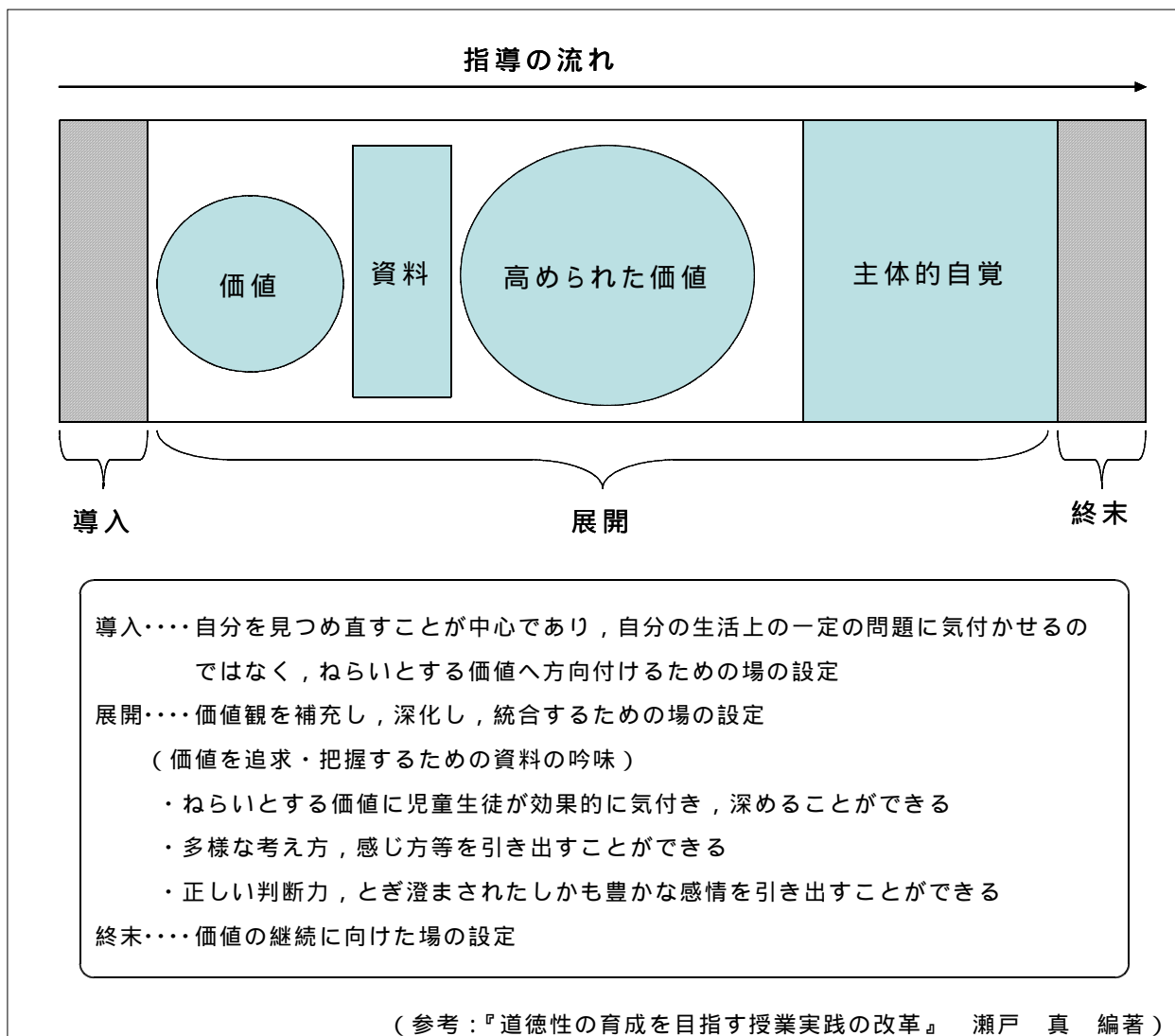


図1 指導過程における道徳的価値の位置付け

瀬戸真の述べている『道徳性の育成を目指す授業実践の改革』の考え方に，書く活動を効果的に取り入れ，道徳の時間のねらいを達成するためには，指導過程のどの段階で，どのようなことを意図して，どのように書かせるかといったことが重要である。

長崎県教育センターの「さあ，道徳の授業をはじめよう！～道徳授業の基本と心にひびく工夫～」では，道徳の時間における基本的な指導過程を図2のように示している。ここで示されている各段階における具体的な学習活動の中に，

書く活動をどのように取り入れ，ねらいにせまるための発問の工夫，ワークシートの活用等をどのように計画していくのかを工夫することが必要となってくる。

指導過程を考えていく際，各段階の内容を固定化したり形式化したりすることなく，それぞれの学級の実態，指導の内容や意図，資料の特質，他の教育活動との関連に応じて弾力的に扱うなどの工夫をすることが大切であると考え。



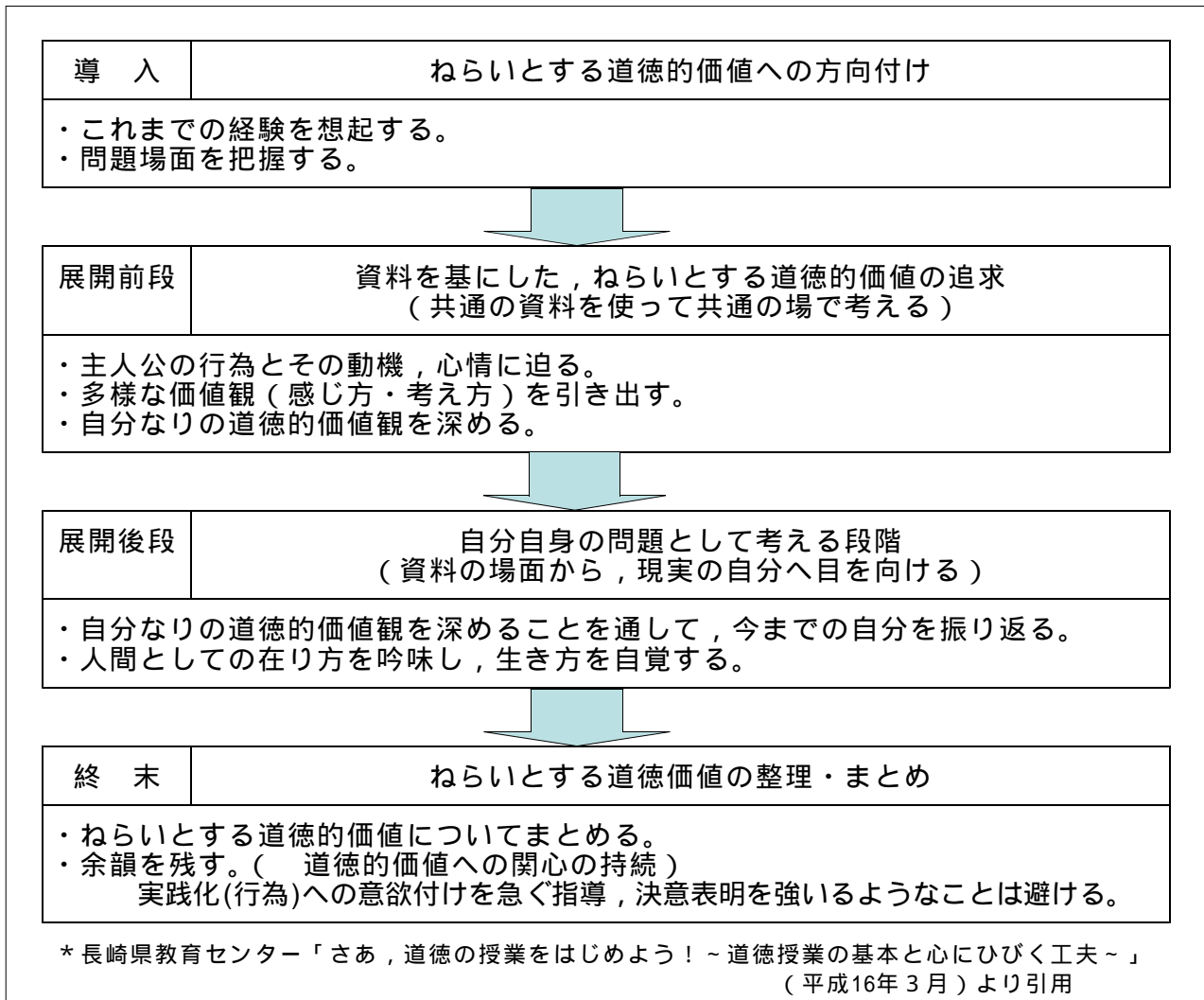


図2 道徳の時間における基本的な指導過程

(4) 道徳の時間に書く活動を取り入れることの  
授業仮説

これまでの基礎的研究に基づき、次のような  
仮説を設定した。

指導過程に即して、書く活動に着目し、  
指導方法等の工夫・改善を図ることによっ  
て、児童生徒一人一人が道徳的価値及び人  
間としての生き方について気付いたり自覚  
をより一層深めたりすることができるので  
はないか。

(5) 道徳の時間の指導過程と書く活動の位置付け

設定した仮説に基づき、指導過程における書  
く活動を、以下のように位置付けることとした。

1 導入段階

これまでの経験を想起したり、問題場面を把  
握したり、学習に対する関心や興味をもたせたり、  
めあてを自覚させたりすることができるように  
書く活動を取り入れる。

2 展開段階

主人公の言動やものの考え方、行動等につい  
て自分の考えや思いを明らかにしたり、話し合  
い、討論における賛否や自分の意見、気付き等  
から自分なりの道徳的価値観を深めたりするな  
ど多様な価値観(感じ方・考え方)を引き出す  
ことができるように書く活動を取り入れる。

### 3 終末段階

ねらいとする道徳的価値についてまとめたり、授業を振り返って学んだことや自分の経験や反省、授業で自覚した人間としての生き方を考えたりすることができるように書く活動を取り入れる（図3）。

図3で示すモデルは、一つの事例であり、固

定化・形式化したものではない。したがって、学級の実態、指導の内容や意図、資料の特質、他の教育活動との関連に応じて弾力的に考えていく必要があるが、本研究ではこのモデルに基づいて実践し、道徳的価値の自覚を深め、道徳的実践力の育成に照らし合わせて実践事例の分析・考察を行うこととする。

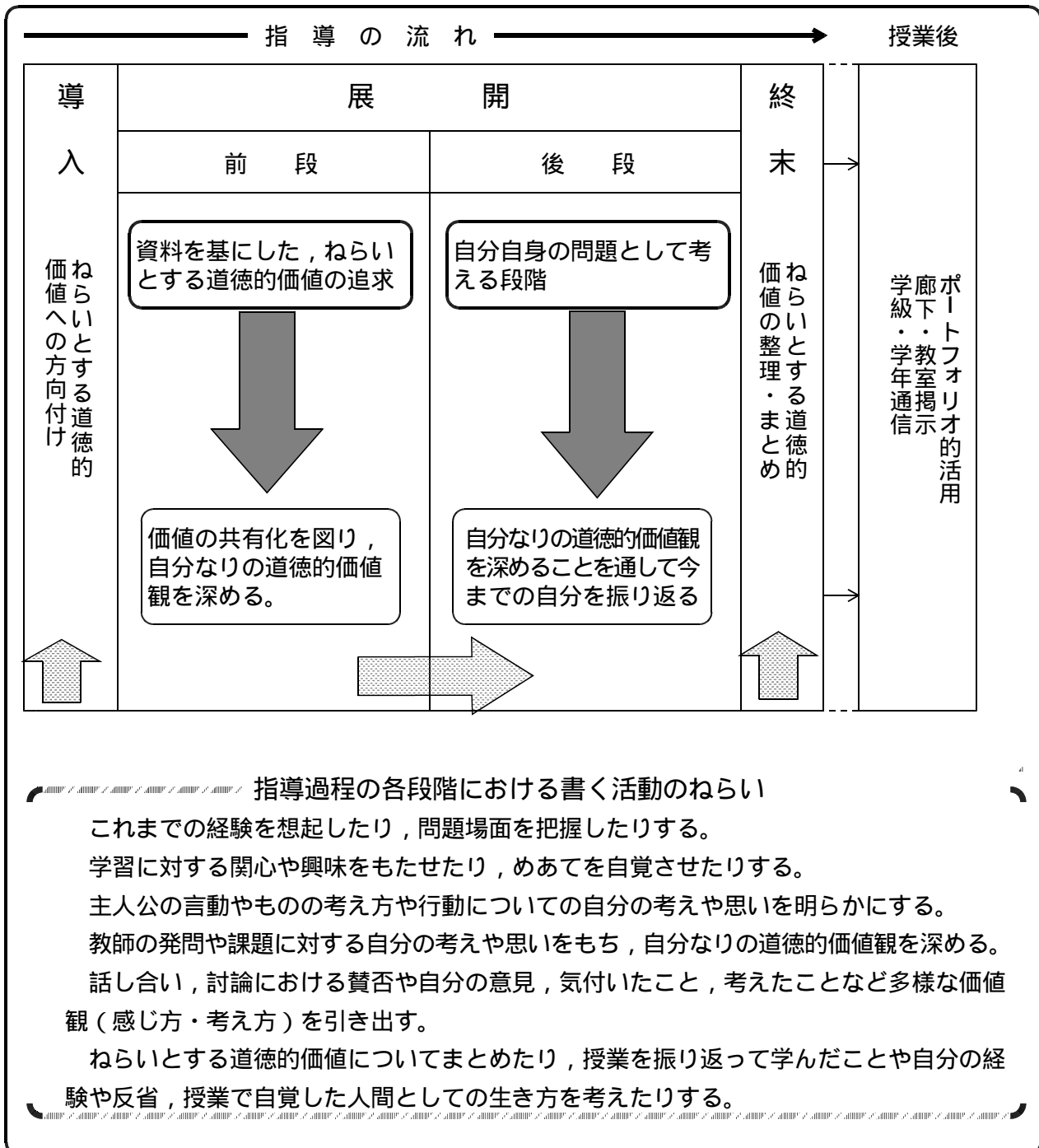


図3 道徳の時間における指導過程と書く活動の位置付け

## 2 実践的研究

### (1) 実践事例1 - 小学校(第5学年) -

ここでは、書く活動に視点を当てたA小学校の道徳の時間の実践に基づいて、効果的な学習方法について分析・考察をしてみたい。

A小学校では、道徳の時間の指導過程に書く活動を位置付けて書く活動を工夫したり、他の学習活動との関連を図ったりするなど、道徳の時間の充実に向けて取り組んでいる。

そこで、まずA小学校における道徳の時間にかかわる構想図(図4)を示すこととする。

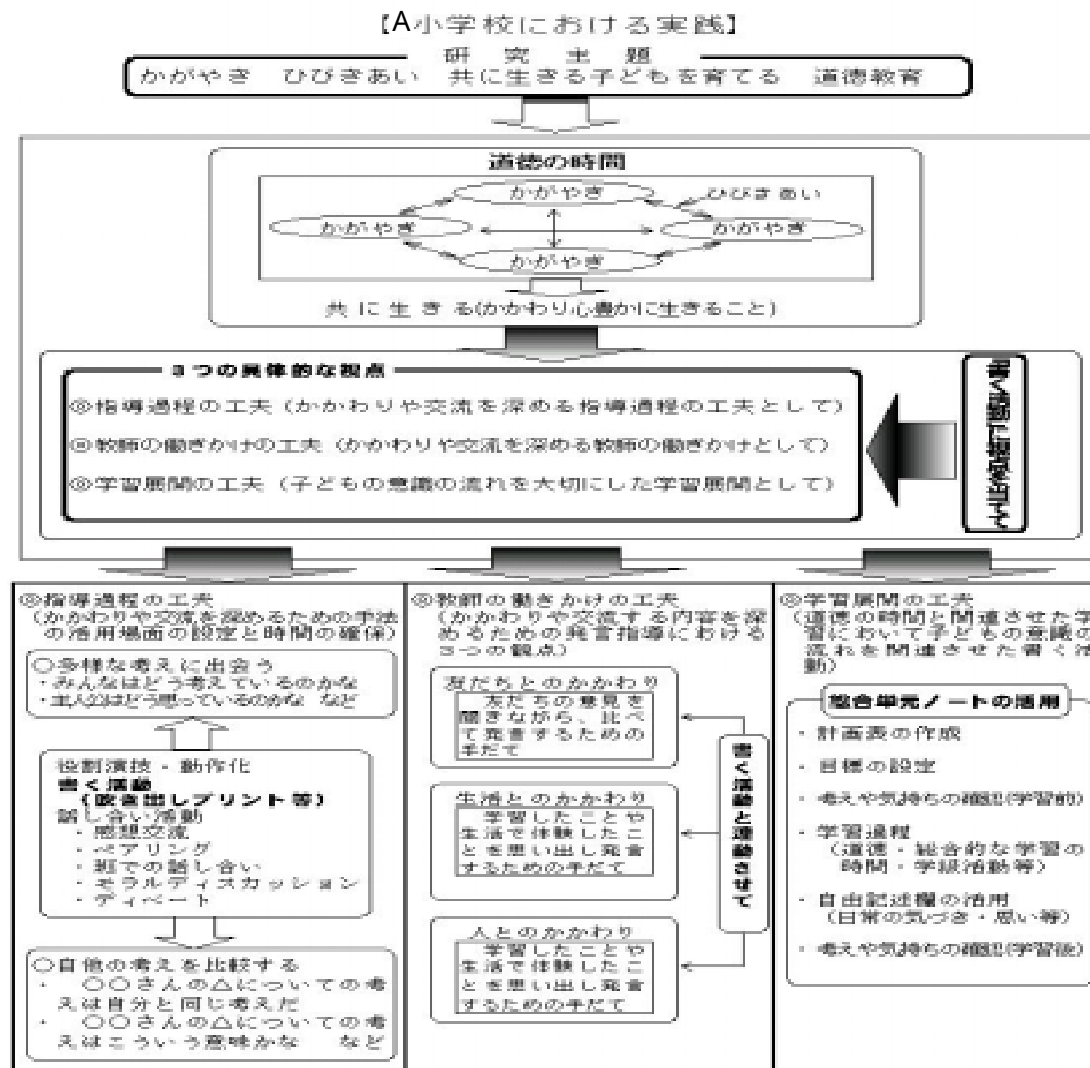


図4 道徳の時間にかかわる構想図

A小学校では、「かがやき、ひびきあい共に生きる子どもを育てる道徳教育」という研究主題を設定し、三つの視点をもとにして具体的な指導法の工夫改善を考え、実践している。

まず、一つ目の視点は、指導過程の工夫と

して、かかわりや交流を深めるための書く活動の活用場面の設定と時間の確保を行っている。二つ目の視点は、教師の働きかけの工夫として、書く活動を基に話し合い活動において有効に機能するための発言指導を三つの観

点から指導している。三つ目の視点では、学習展開の工夫として道徳の時間と関連させた学習において、子どもの意識の流れを関連させた書く活動を取り入れている。それぞれの指導の工夫の中で、「書く」ということが基盤として位置付けられており、「書く」ということに重点をおいて指導している。

書く活動において重要な役割を果たすのがワークシートの作成であるが、ワークシートの活用については、道徳の時間の学習過程において、役割演技や動作化などダイナミックに活動する場とともに、じっくりと主人公の心情を考えたり、静かに自己を振り返り自問する場が必要である。静かながらもその躍動する内面は、書くことによってより鮮明なも

のになると考える。

ワークシートはこの内面の営みを助長し、子どもの課題追求や課題解決を支援するための学習の筋道が明確に示され、自力解決を支援するためのガイダンスとして期待されるものである。また、道徳の時間で学んだことや自己の見つめ直し等について書き留めておく働きもある。事前や事後の学習を含めた活用、あるいは、特定の道徳的価値にとらわれず、トータルに自己を見つめ直すことができるようなワークシートの工夫が必要である。

ワークシートは、ねらいや活用方法等によってシートに記載する項目やレイアウト等の工夫が必要になるが、次のようなワークシートが考えられる(表1)。

表1 ワークシートの形式とポイント

吹き出し型のワークシート
特に中心発問における主人公の内言を語らせる際に有効である。学習シートの形式を用意しておき、副読本の挿絵から中心場面における主人公の顔絵をつけて、印刷する方法が最も手軽である。資料によっては、顔の表情を出さず、シルエットを用いることがあってもよい。
手紙形式のワークシート
主人公への手紙を記すことも多くみかけるが、資料の世界に終始しないよう配慮する必要がある。本時の学習を通して学んだこと、自己の課題となったことなどを保護者や友だち、先生に伝え、その返事を書きあっていくというような鉛筆対談的な交流形式も有効である。
総合的なワークシート
例えば、尊敬・感謝を主題とした授業で事前に「地域で見つけたありがたい人」について調べ記していくためのワークシートを用意したり、事後には、その人たちに感謝の思いを表していく計画を学級活動で立てていくためのワークシートを用いるなど、他の教育活動との関連や一連の道徳学習の過程の中で見通していくことも大切である。

(押谷由夫・宮川八岐編『重要用語 300 の基礎知識 12 巻 道徳・特別活動重要用語 300 の基礎知識』)より引用

次に、実際の授業において、書く活動を指導過程にどのように位置付け、どのように工夫し、どのような学習活動と関連付けたかについて述べてみたい。

まず、書く活動を指導過程にどう位置付け、どのように工夫したかということであるが、ここでは、第5学年学習指導案「牛乳配り」を1つの事例として示す。

ア 指導過程における書く活動の位置付け

ここで示す事例は、基礎的研究の図3で示した「道徳の時間における指導過程と書く活動の位置付け」のの部分である。図5は、第5学年学習指導案「牛乳配り」であるが、A小学校では、展開段階（ひびきあいの活動）に、書く活動と、書く活動に基づく話し合いの場を設定した。

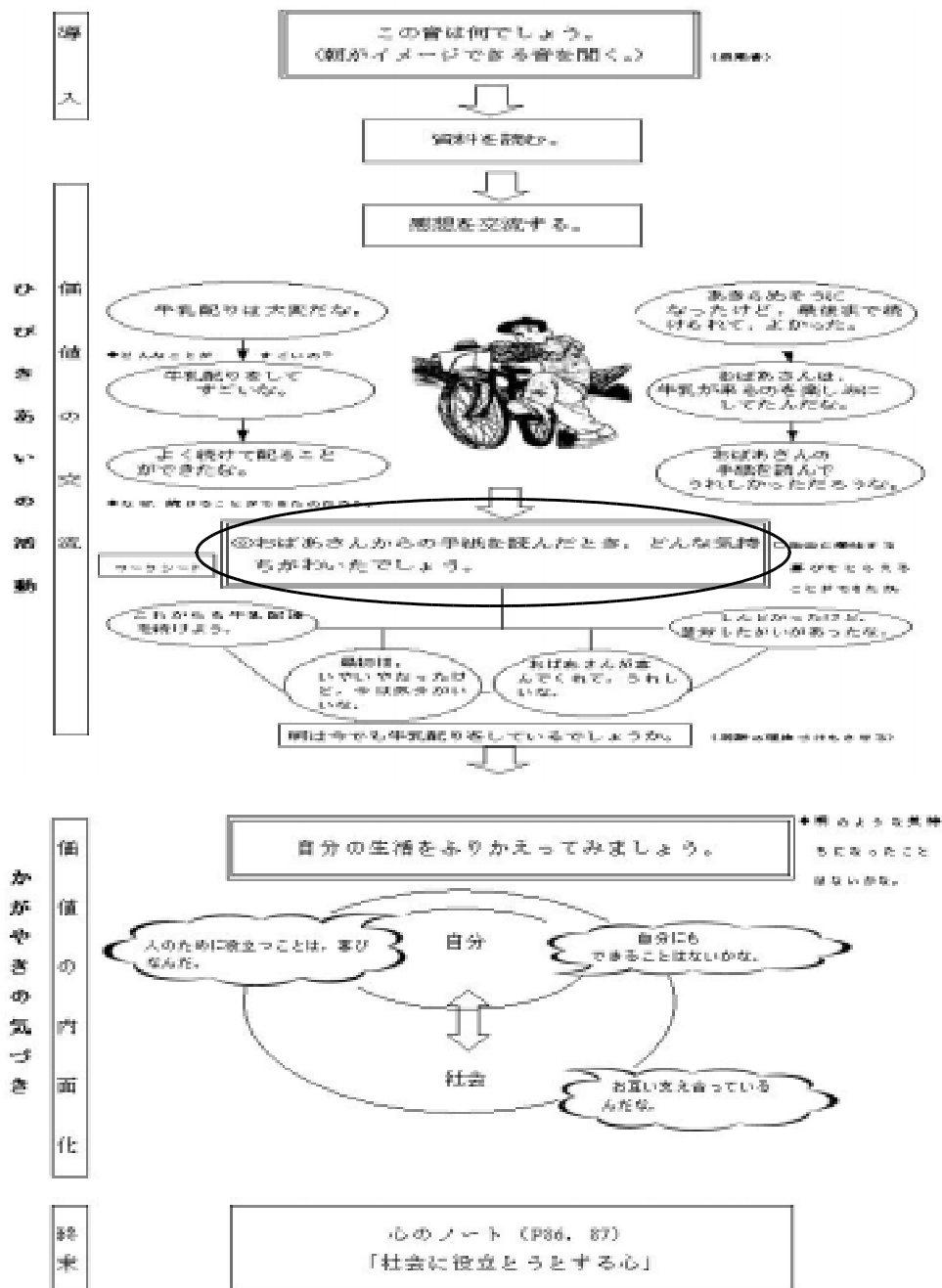


図5 第5学年学習指導案「牛乳配り」

## イ 書く活動の工夫

ここでは、書く活動における具体的な事例と、書く活動に基づく話し合いの場の効果について示す。

### (ア) 書く活動について

主人公の立場に立って状況把握し、主人公が牛乳を配っているおばあさんからの手紙を読んだときの思いや考えを表出することを通して、自分の思いを披瀝できるようにするとともに、話し合いの場において、友だちの思いや考えを聞くことによって多様な考えに出会ったり、他者と自分の考えを比較したりすることをねらいとして、ワークシート(図6)を用意した。

さらに、学習を通して自己の振り返りができるように、ワークシートの裏面に、自分の考えをはっきりと発表できたか、友だちの考えをしっかりと聞き、考えることができたか、といった2点について評価する項目を用意した。

牛乳配り	月 日 ( )
年 級 名前	
	
<p>※裏に印刷</p> <p>①自分の考えをはっきりと発表することができたか。</p> <p>②友だちの考えをしっかりと聞き、考えましたか。</p>	

自己評価活動  
・学習態度評価  
・学習内容、及びききあい評価

図6 ワークシート

図7 ワークシート(A児)

牛乳配り	月 日 (水)
5年 / 級 名前	
<p>明日はおばあさんから手紙が来て明日は水曜日かと思 います。おばあさん、明日毎朝おばあさんの家に牛乳を 配達してねえのと同じように配達して来て配っておばあさんは、 毎朝牛乳を入れる箱を聞くために朝が早くあつたのでお ばあさんは明日お社の手紙を明日わたしたくて明日は 手紙が来てくれるねからがんばろうと思 うと思います。 後には、明日の朝早くおばあさん 見てあげたいわ。</p>	



主人公がおばあさんから手紙をもらった際のうれしかった気持ちや苦勞が報われた気持ち、これからはがんばろうとする気持ちなどを、主人公の置かれている状況や背景から推測し、理由をきちんと示しながら書き表している。

図7は、A児のワークシートである。

図8は、B児のワークシートである。

牛乳配り	11月 29日 (火)
5年 2組 名前	
いつも外にでてない理由が分かった。	
いつも牛乳を配る音を静かに聞いていたんだ”	
それにこんなに、そのおにいちゃん書いてくれた手紙を	
入れてくれて、よなやさいい人を見たいなあ	
と思ったと思いました。会いたいなあ〜と	
おもう、にぼるうわ。	



図8 ワークシート（B児）

文末に、「こんなやさしい人を見たい」と表現しているように、B児自身の気持ちを主人公の気持ちと重ね合わせて想像し、表現している。

このように、自分の思いを自由に表出することができるようなワークシートを用意することで、主人公の気持ちを理解したり、自分自身の言動と重ね合わせたりすることを可能にするとともに、話し合い活動に向けて自分の考えを整理することに役立てることができる。

留意事項としては次のようなことが考えられる。

- ・ 書くことを苦手とする児童には、その子なりの表現方法を認め、どのようなことを書こうとしているか個別に聞くことが必要である。
- ・ 書くということについては個人差があるので、量的にも質的にも達成目標については配慮する必要がある。あくまでも自己の思いが明確なものとして表現していることを評価することが大切である。

#### (イ) 話し合いの場への効果について

主人公の立場に立ち、自分の思いや考えを披瀝することができるように書く活動を取り入れた結果、話し合いの場における成果として、次のことが挙げられる。

##### 自分の考えや態度をはっきりさせることができた。

児童は、話し合う前に考える時間が保障されたことにより、自分なりの思いや態度を明確に意識して話し合いに参加することができた。

##### 発言への安心感を持たせることができた。

教師が机間指導を行い、ワークシートに書いている内容を見て、励ましたり助言したりしたことも要因のひとつとして考えられるが、発言を苦手とする児童に対して、書いたものを読みながら発言してもよいことを助言したことで、発言することへの不安感を取り除くことができた。

また、発言の苦手な児童は、話し合う経験を重ねるごとに次第にワークシートから視線を離して、その時の自分の言葉で表現できるようになった。

新しい考えを引き出すことができた。

友だちの意見を聞きながら、ワークシートを見て自分の記述と比べたり、学習したことや生活で体験したことを思い出し、ワークシートに記述をしていない内容まで発言したりする場面が見られた。

(ウ) 学習活動との関連付けについて

学習展開の工夫であるが、「牛乳配り」という道徳の時間を中核として、各教科や総合的な時間の学習などと関連付け、書く活動を取り入れた「総合单元ノート」として生かし、子どもの意識の流れが確認できるようにした。この学習を次のように構成している(図9)。

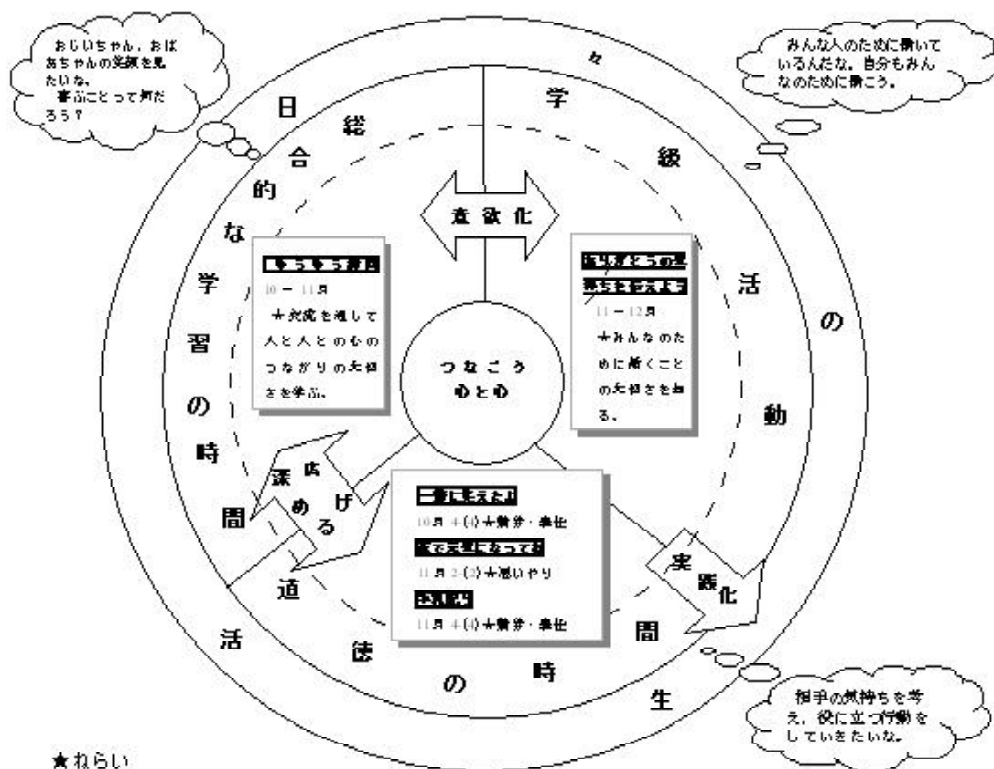


図9 道徳の時間と他の学習との関連構想図

「総合单元ノート」とは、「指導の各過程で、書くことによって児童一人一人に自分の考えを明確にさせ、自分を深く見つめさせるためのノート」のことである(図10)。

書くという作業は、考えるという働きを伴うものであり、児童は書くことによって思考を働かせ、自分の考えを整理したり、明確にしたりする。そのために、指導の各過程で活用することが効果的であると考え。

形式については、単純で、自由に書けるよ

うにしているものがよいと考える。ノートではなく用紙を印刷し、「主人公の行動についてどう思うか」「自分を振り返って」「この授業で学んだこと」など、書く視点を明確にして配布する方法も考えられる。つまり、形式にこだわらず、子どもたちが書きやすく、負担にならないということがポイントである。このような書く活動を取り入れて記録していくことで、自己の内面はより鮮明なものとなる。

「総合单元ノート」は、この内面の営みを



助長し、児童の道徳的価値の自覚を深めるためのガイダンスとして期待できる。道徳の時間で学んだことや自己について見つめたことを書き留めておく働きもあるが、道徳学習の一環として、事前や事後学習を含めての活用や、特定の道徳的価値にとらわれず、トータルに自己を見つめ生かしていくことができ、書く活動を充実させる方法の一つと考える。

「総合単元ノート」の効果としては、児童

にとって、その時点での考えが文字として残り、自己の考えを振り返ったり、これまでの生活を見つめ直ししたりすることが可能になり、自分の成長の足跡になると考える。また、教師にとって、児童一人一人の考えを捉えたり、次時の指導の視点に生かしたりすることができる。また、児童一人一人に応じたコメントを書き込むことで、個別支援や学習の評価に生かすことができると考える。

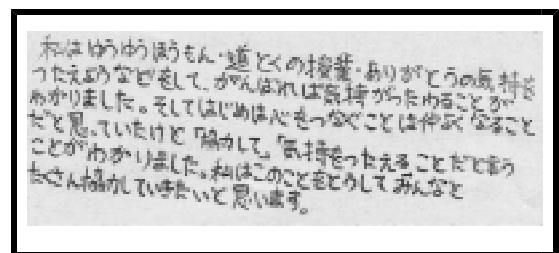
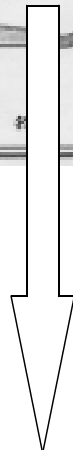
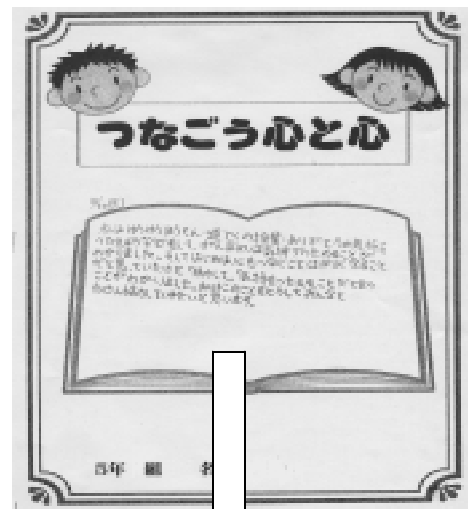
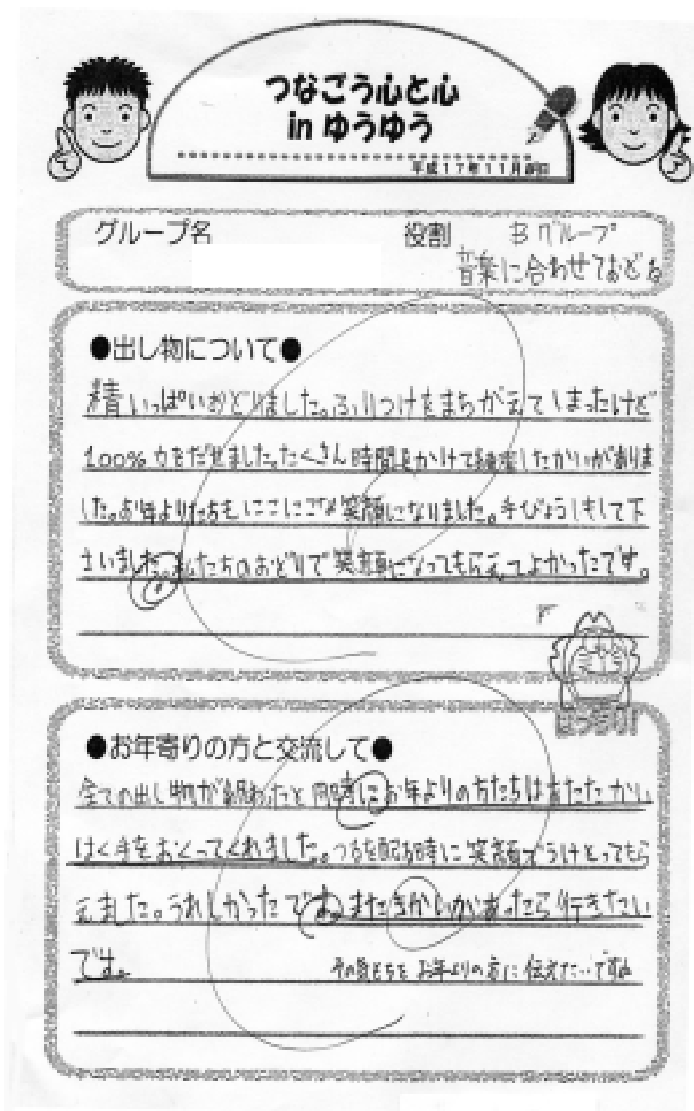


図10 「総合単元ノート」

(I) 学校全体としての取組として

A小学校では、児童、保護者等、子どもたちの生活にかかわる方々に対して道徳の時間に関する児童の学習状況などについての情報提供として、定期的に通信「どうとく」を発行し紹介している(図11)。全学年、学級の

取組の状況がわかるように、紙面の工夫をしている。

また、通信に書かれている内容は、情報提供ということだけでなく、学校全体としての取組を児童一人一人が自覚するために学習教材としても活用している。

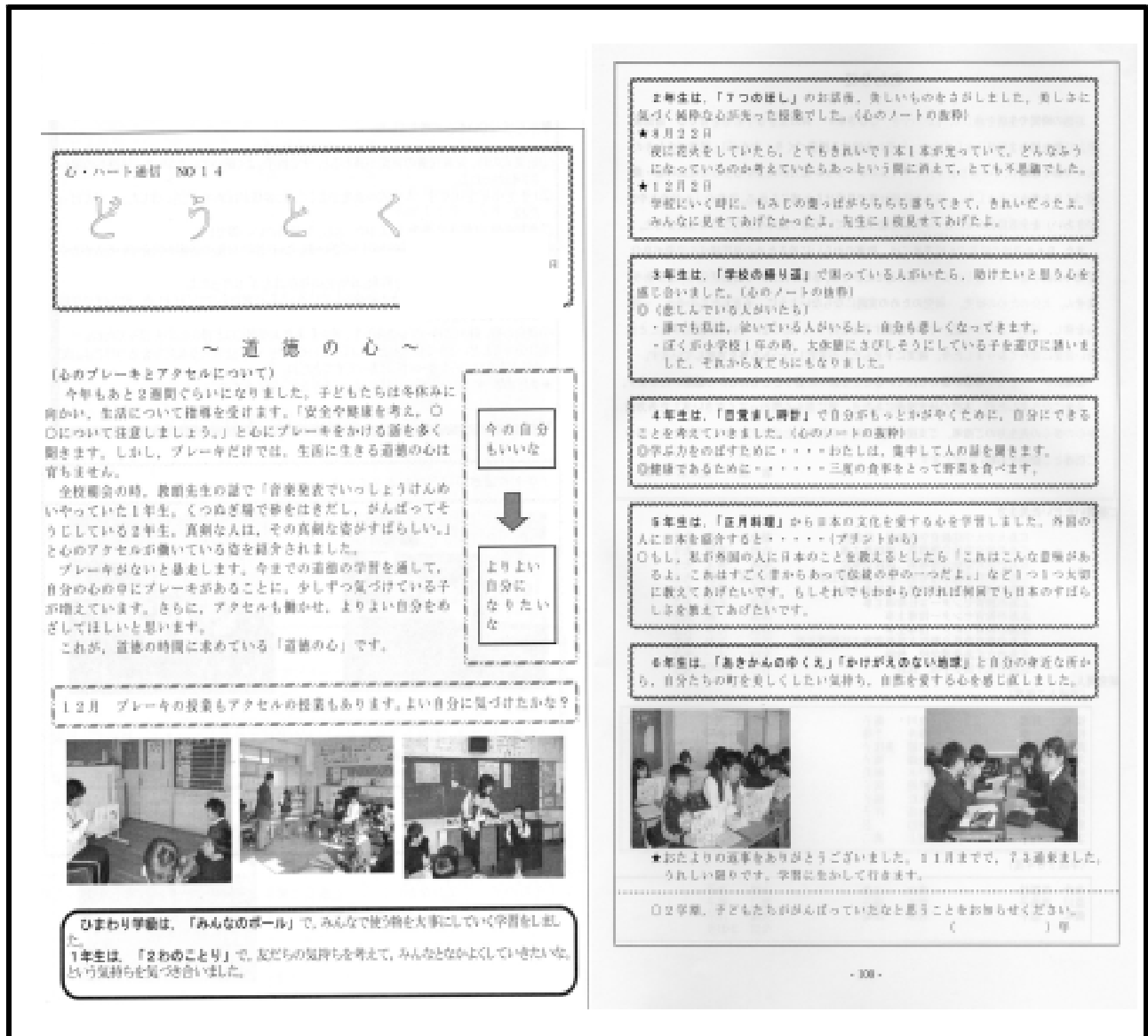


図11 通信「どうとく」

(オ) 成果と課題

A小学校では、全児童を対象として7月と12月に、道徳の時間についてのアンケートを実施している。その中で、「道徳の時間は自分にとってためになりますか」という項目と、「道徳の時間は楽しいですか」という項目について、第5学年の児童の結果は右図のとおりであった(図12, 図13)。

成果としては、二つのアンケート項目とも、7月に比べて12月の結果は「ためになる」と回答した児童が増えている。「ためになる」理由として、児童は次のようにワークシートに書いている。

「ためになる」と答えた理由(一部抜粋)

- ・ 友だちの大切さや動物の命の大切さがわかるから。
- ・ いろいろな意見を聞いて自分の意見と比べ、発表することができるようになった。
- ・ 自分の気持ちを伝えることは苦手だけれど、人の思っていることを参考にして少しずつ、自分の意見を言うようになってきた。
- ・ 人の気持ちを考えるようになるし、自分たちに欠けているところを見つけたりすることができるから。
- ・ 前は、発表が恥ずかしかつたけれどプリントに書くことで今は発表できるようになってきた。
- ・ 自分の思いを書いたり、発表したりすることが楽しい。

指導過程の工夫、教師の働きかけの工夫、学習展開の工夫の三つの視点に基づき、学習を展開した結果、児童は、自分の考えを述べたり、友だちの意見を聞いて自分の考えと比べたりするなど、お互いの気持ちを大切に、かわり合いながら学習を進めることができるようになったと考える。また、アンダーラ

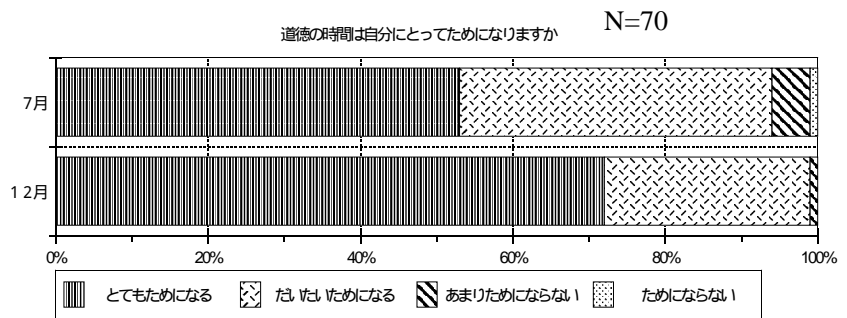


図12 アンケート結果

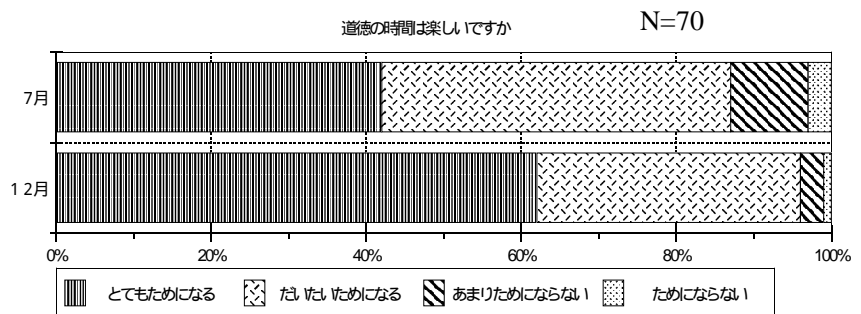


図13 アンケート結果

インで示しているように、書くことが学習への自信に繋がったり、自分の思いを書くことを通して、表出することに喜びを感じたりしていることなどは、指導過程に「書く活動」を位置付け、指導を展開した成果であると考ええる。

「ためにならない」と回答した児童は、その理由として、次のようにワークシートに書いている。

「ためにならない」と答えた理由(一部抜粋)

- ・ もう少し考える時間がほしい。
- ・ 自分ならどうするということを書かないといけなから。

児童の理由にもあるように、書く時間を指導計画の中で適切に設定することや、書くことに対して抵抗がある児童への個別指導を行うことが今後の課題である。

(2) 実践事例2 - 中学校(第1学年) -

B中学校における実践事例をもとに、書く活動に視点を当てた指導法の改善・充実について、考察を加えてみたい。

ア 研究推進計画

B中学校では、まず豊かな心をはぐくむためには、その基盤として生徒同士の好ましい人間関係や教師との信頼関係が確立し、学級の雰囲気は温かく、子どもたちが安心して自分の力を発揮できる場が必要であると考えている。

生徒が感化され、影響を強く受ける社会全体のモラルの低下は指摘するまでもなく、道徳性の基盤としての生徒同士のかわり、すなわち人間関係の希薄さゆえに、他人に対する思いやりに欠ける言動や、専ら個人の利害損得を優先させたり、他者へ責任転嫁したりする諸行為が学校教育に大きな陰を落としていることは見逃すことはできない。また、そうした事情は、決して中学校だけの課題とはいえない。

心身ともに発達の著しい中学生段階における道徳性の発達は、その後の発達の基礎となるという意味では大きな可能性を秘めているが、それは、自己の探求や理想の追求に向けてのさまざまな葛藤や経験、人間関係の広がりや親密化の中で、激しい揺れを経験しながら自己を確立していく時期でもある。こうした時期には、親や教師に対して反発したり、批判的になったりすることがある。また、仲間集団の言葉や評価を敏感に感じ、他者への認識やかかわり方が生徒個々の自己概念へ影響を及ぼし、自己嫌悪や自尊感情の高揚だけではなく、時には自己を見失ったり、自己の殻に閉じこもったりすることも見られる。

そこで、B中学校では「他者とのかわりを深め、思いやりの心を持つ生徒の育成」を研究主題に、「コミュニケーション活動を基盤とした道徳教育の展開を通して」を副題に掲げ、道徳教育の充実を目指す実践研究を進めてきた(図14)。

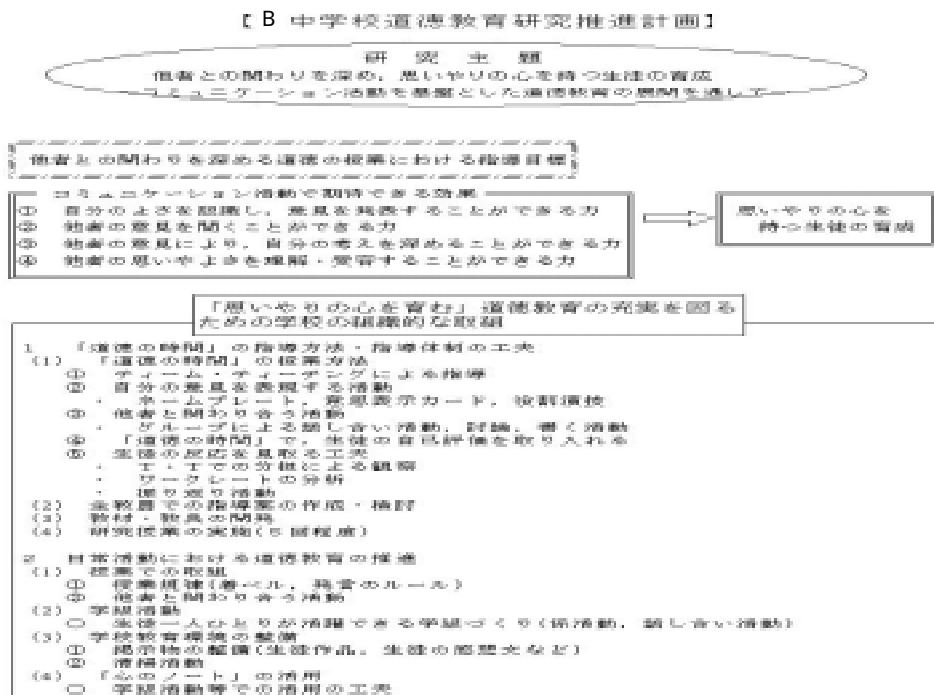


図14 B中学校道徳教育研究推進計画

コミュニケーション活動において、少なくとも 自己理解、他者理解、相互作用による自己変容・自己表出の場を設定することによって、他者とのかかわりを深めるためのコミュニケーション活動を基盤として、道徳の時間をそのねらいに即して活性化させようとする視点を見て取ることができる。

具体的には、「自分の意見を表現する活動」、「他者とかかわり合う活動」、「自己を振り返る」活動等の場面を設定しており、道徳の時間の指導過程に即して、自己内対話や社会的相互作用を促そうとする意図が見受けられる。

また、学校全体の組織的な取組の手だてとして、ティーム・ティーチングによる指導を挙げることができる。これは、教師同士による協働的な授業づくり、教師と生徒との双方向的な授業の推進、教師による生徒の道徳性に係る評価（見取り）とその指導など、教師と生徒、生徒と生徒間におけるコミュニケーション活動の様相を多元化し、組織化する契機を与えるものとなっている。

#### イ 具体的な指導及び内容

道徳の時間の指導にあたって、表2のような具体的な手だてを講じている。

表2 具体的な指導法の工夫・内容

【具体的な指導法の工夫・内容】

	指 導 法	内 容	旨
A	ネームプレート	個人名の入ったマグネット付きのプレートを、黒板上に示された座標の上に貼り付ける。そのことによって、自分の判断の度合いを他者と比較しながら確認することができる。	
B	意思表示カード	二色のカードを生徒に配付し、自分の意思を表示させることにより、全員が主体的に自己の意思を表出することができる。	
C	討論	登場人物の行為について「賛成・反対」の立場から討論を行うことにより、話し合いを活性化させることができる。	
D	ロールプレイ	生徒と教師、あるいは生徒と生徒がロールプレイを行うことにより、登場人物の心情理解を深めることができる。	
E	ロールプレイ・ディベート	グループでの話し合いの時、あるテーマについて異なる二つの立場に分かれて話し合い、途中で立場を交代してさらに話し合いを行う。異なる立場を模擬体験することにより、生徒の考えを深めることができる。	
F	話し合い	小グループでの話し合いを授業に取り入れることにより、自分の意見を分かりやすく伝えることや、お互いの意見を聞く力を養う。	
G	書く活動	グループでの話し合いや自分の意見を言う前後に、ワークシートに「書く」作業を取り入れることで、自分の考えを持ったり、振り返ったりすることを容易にし、深めることができる。	

#### ○ 授業における具体的な活用例

- ・ネームプレートで自分や他者の意見を確認した後、それぞれの立場に分かれて話し合いを行った。
- ・ネームプレートは一斉に置かせ、他者の意見に左右されないように配慮した。
- ・討論では、教室の中央から向かい合わせになり、討論がしやすい隊形とした。
- ・ロールプレイでは、登場人物の心情を理解するため、役割を交代しながら行った。
- ・ロールプレイ・ディベートでは、話し合いのシナリオを生徒に考え、進行しやすいようにした。
- ・「書く」活動では、吹き出し等を使い、生徒が書きやすいように工夫した。
- ・話し合いのグループは4人1組にして、メンバー全員が話し合いに参加できるようにした。

主だったものを表に示しているが、「ネームプレート」や「意思表示カード」等は、中学生の発達段階を踏まえ、資料から自己の思いや考えをクラスのなかで素直に表出する手だてとして捉えることができる。また、ロールプレイ・ディベートに代表される動作化、役割演技等の生徒の活動をコミュニケーションを深める手だてとして指導過程の中に明確

に位置付けようとしている。

このような生徒の活動について、『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説 - 道徳編 -』（平成11年9月、文部省）においては、「指導方法の創意工夫」の項で、「動作化、役割演技等の生徒の活動」として、次のような記述が見られる（表3）。

表3 具体的な指導法の工夫

(5)動作化、役割演技等の生徒の活動

道徳の時間に動作化や役割演技、コミュニケーションを深める活動などを取り入れることは、生徒の感性を磨いたり、臨場感を高めたりするとともに、表現活動を通して自分自身の問題として深くかかわり、ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けることができる。

指導に当たっては、生徒が伸び伸びと表現できるよう配慮するとともに、日常の指導の中で表現活動に慣れさせることや自由に表現できる学級の雰囲気をつくるのが大切である。また、これらの活動が単に興味本位に流れることにならないようにするため、活動を取り入れる目的やねらい達成の見通しをもち、場面設定をしっかりとしておくことなどに配慮することが大切である（下線筆者）。

上記の事項を配慮しつつ、道徳の時間において動作化や役割演技等を効果的に取り入れることができれば、「ねらいの根底にある道徳的価値についての共感的な理解を深め、主体的に道徳的実践力を身に付けること」ができると考える。

ウ ロールプレイ・ディベートを取り入れた授業の工夫

ここでは、B中学校第1学年で取り入れたロールプレイ・ディベートについて、そのねらいと手法、及び道徳の時間における留意点等について考えてみたい。

(ア) 基本的な考え方

ディスカッション（討論）が、主に合意形成をしたり、考えを一致させたりするために行うものであるのに対して、ディベートは、或る論争点に関して相反する立場に立ち、他

の立場より正しい、あるいは優勢であることを相手や第三者に認めさせて、説得することを目的としている。

しかし、一方でそのような手法を通して勝ち負けにこだわってしまうと、言い逃れや詭弁の術として否定的な側面が強調される場合もある。そのような意味からも、道徳の時間にディベートを取り入れる際は慎重を期すると同時に、より柔軟に考える必要がある。

(イ) ねらい

とりわけ、ある立場からその役割を演じつつ論争に挑むロールプレイ・ディベートには、以下のようなねらいがあるとされる。

- ・ 自他の考えの相違点を知る。
- ・ 相手が自分をどのように思っているか、あるいは理解しようとしているか知る。
- ・ 情報収集の必要性や重要性を認識する。

自己の考えを相手に伝えようとする視点や他者の考えを理解しようとする視点について理解を図ることからすれば、道徳の時間においても活用する意義は認められる。つまり、B中学校がねらっている「思いやりの心を持

つ生徒の育成」にも大いに寄与する可能性を含んでいるのである。

具体的な手順については、次のような方法が考えられる（図15）。

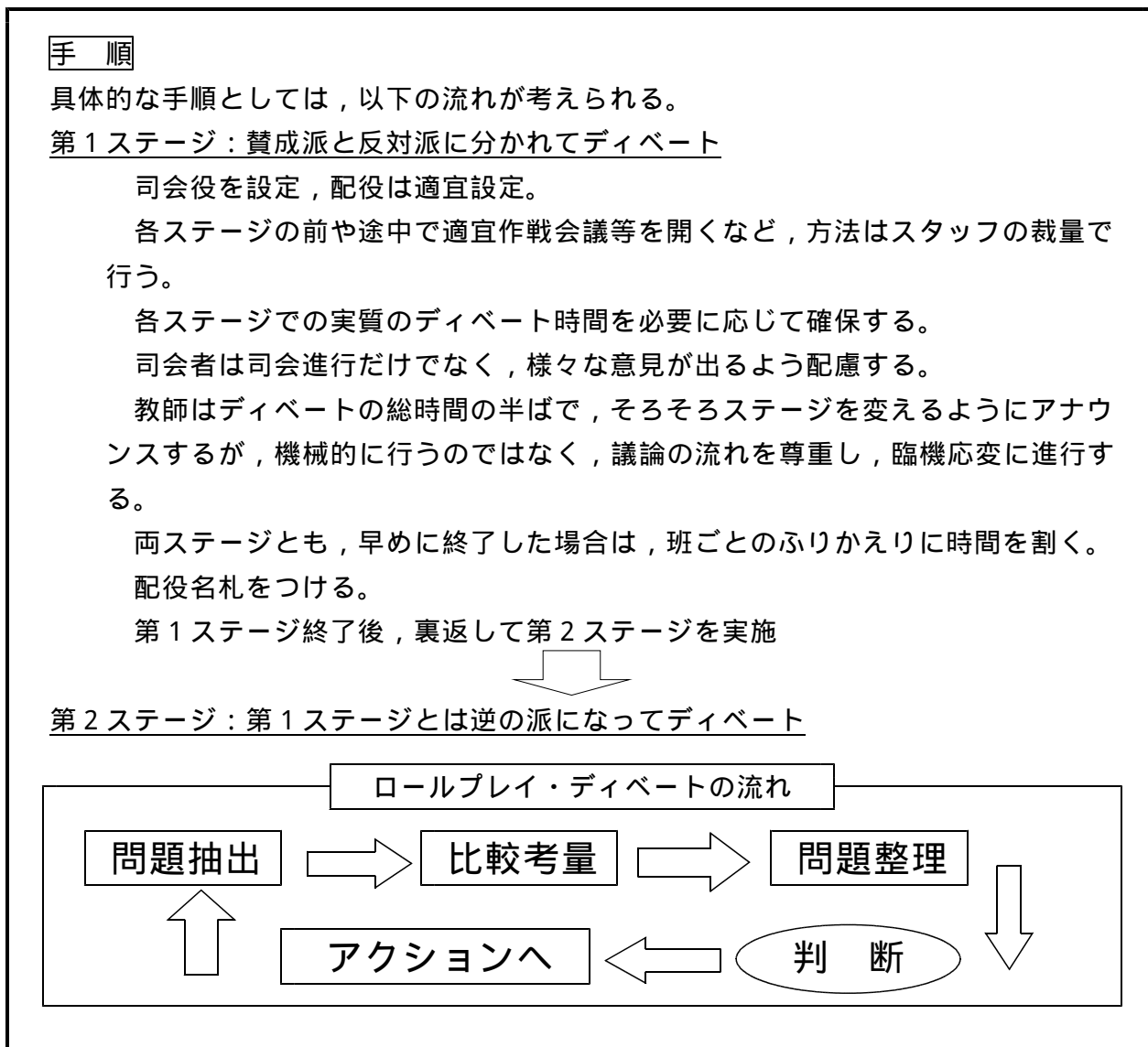


図15 ロールプレイ・ディベートの手順例

(ウ) 留意点

上記で示したねらいや手順を踏まえつつ，ロールプレイ・ディベートを道徳の時間に取り入れる際の留意点を挙げておこう。

相手を言い負かすというディベートの一面が強調されないようにする。

感情論ではなく，自らの体験や事実を根拠として立論や反駁ができるようにする。

物事を多面的に理解すること，集団思考

の技法を学ぶなど，ディベートのよさを生かす。

論題の選び方，ルールなど，様々な制約条件を付することに留意する。

道徳の時間では，形式的立場を解除し，他者の声に耳を傾け，自分の意見を確認するとともに，各自が自分を見つめることができるようにする。

(I) 振り返りの視点

ロールプレイ・ディベートの振り返りについでに視点を示すと、以下ようになる。

役づくりはうまくいったか  
説得的な説明ができたか  
多面的に思考できたか  
臨機応変に判断できたか  
問題認識は深まったか

(オ) 書く活動とのかかわりについて

先に述べたような諸点を踏まえたとき、徳の時間の指導にあたっては、ロールプレイ・ディベートを行って個々の道徳的行為や日常生活の問題処理に終わるのではなく、生徒が道徳的価値を内面的に自覚できるよう指導

方法の工夫に努めなければならない。そこに書く活動の位置付けがある。つまり、ロールプレイ・ディベート等の生徒の活動と徳の時間のねらいとを取り結ぶのが、書く活動であるということができると考える。

それでは、B中学校における具体的に徳の時間の取組について二つの実践事例をもとに分析・考察したい。

(カ) 徳の時間の概要と分析・考察

ここでは、集団生活の向上に向けて自らの役割と責任を果たそうとする態度を育てることをねらいとしている資料「選手に選ばれて」を朗読したあと、次のような手順で展開における指導過程が構想されている(図16)。

第1学年 道徳学習指導案					
1	日 時	平成17年9月28日(木)			
2	学 年	第1学年			
3	主 題 名	【4-1(1) 役割と責任の自覚、集団生活の向上】 関連項目4-1(2) 権利と義務			
4	ねらい	集団生活を営もうとて大切である互いに協力し合うという価値を養い、集団における自らの役割と責任を果たそうとする態度を育てる。			
5	資料名	「選手に選ばれて」			
6	指導過程				
1	学習活動	<p>1. 今まで学習で行われてきた決め方を振り返り、その思いを発表する。</p> <p>2. 資料の情景を説明を促す。</p> <p>3. 両者の言い分に賛成か、どちらのみんなの言い分に賛成か、その理由を自由にワークシートに書きこむ。</p> <p>4. 両者にワークシートを貼る。</p> <p>5. グループ(くまびと)対決を行う。</p> <p>6. グループ対決を終えて思ったことをワークシートに記入する。</p> <p>7. ワークシートに記入した思いや考えを発表する。</p>	<p>生徒の動きと留意点・評価(各)</p> <p>T1 T2</p> <p>留意点</p>	<p>○今まで学習で決めた決め方を振り返り、その思いを発表する。</p> <p>○その時に、いやな思いをしたことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ある。</li> <li>・ない。</li> </ul> <p>○「ある」と答えた人は、どうしていやな思いをしたのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたかったのにできなかった。</li> <li>・無理を押し付けられた。</li> </ul> <p>●両者の言い分を自分の気持ちも考えながら聞きこむ。</p> <p>●両者の言い分に賛成か、どちらのみんなの言い分に賛成か、その理由を自由にワークシートに書きこむ。</p> <p>●それぞれの意見に応じてワークシートを貼る。</p> <p>●両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。</p> <p>【司会役を兼ね、司会人ずつが両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人に分かれて対決を行う。時間は5分程度】</p> <p>●グループ対決を終えて思ったことをワークシートに書きこむ。</p> <p>○両者の言い分を自分の気持ちも考えながら聞きこむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人は大事だが、全体のことも大事に考えていくべきだ。</li> <li>・納得した以上は、出陣して責任を果たす方がよい。</li> <li>・みんなの意見を踏まえて決めた以上、強さが必要だ。</li> <li>・みんなの意見の強弱も考えて決めるべきだ。</li> <li>・みんなのことも考えて、みんなが納得することは大切だ。</li> <li>・みんなが納得してあげることが大切だ。</li> </ul>	
2	資料の情景を説明を促す。	●両者の言い分を自分の気持ちも考えながら聞きこむ。	・生徒の動き	・留意点	・場面状況の説明を促す。説明を促さない場合は、説明を促す。説明を促さない場合は、説明を促す。
3	両者の言い分に賛成か、どちらのみんなの言い分に賛成か、その理由を自由にワークシートに書きこむ。	●両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。 <p>【司会役を兼ね、司会人ずつが両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人に分かれて対決を行う。時間は5分程度】</p>	・両者	・両者	・両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。
4	両者にワークシートを貼る。	●それぞれの意見に応じてワークシートを貼る。	・両者	・両者	・両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。
5	グループ(くまびと)対決を行う。	●両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。 <p>【司会役を兼ね、司会人ずつが両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人に分かれて対決を行う。時間は5分程度】</p>	・両者	・両者	・両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。
6	グループ対決を終えて思ったことをワークシートに記入する。	●グループ対決を終えて思ったことをワークシートに書きこむ。	・両者	・両者	・両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。
7	ワークシートに記入した思いや考えを発表する。	○両者の言い分を自分の気持ちも考えながら聞きこむ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人は大事だが、全体のことも大事に考えていくべきだ。</li> <li>・納得した以上は、出陣して責任を果たす方がよい。</li> <li>・みんなの意見を踏まえて決めた以上、強さが必要だ。</li> <li>・みんなの意見の強弱も考えて決めるべきだ。</li> <li>・みんなのことも考えて、みんなが納得することは大切だ。</li> <li>・みんなが納得してあげることが大切だ。</li> </ul>	・両者	・両者	・両者の立場に立つ人とみんなの立場に立つ人以外に分かれてグループ対決をします。

図16 第1学年学習指導案「選手に選ばれて」



指導の工夫として、次のようなことに留意して授業を行った。

自分の立場とその理由をワークシートへ記入

ネームプレートによる自己の立場の表明

A君とみんなの立場に分かれてロールプレイ・ディベート(後、役割の交代)

討論を終えての感想とどのような価値を重んじるかについてワークシートへ記入

ここでは、ロールプレイ・ディベートを挟み、ワークシートへの記入が二度行われている。最初は、自己の思いや考えを、そして最

後は他者との討論後の自己の変容について書く活動を取り入れた。資料との出会い、体験活動との出会いを通して、書くことへの必然性が生じるように仕組みられている。ワークシートは教師の側の発問の焦点化であるとともに、評価方法としても活用している。

図17のワークシートからは、生徒は自分の考えを大きく変更していないにしても、ロールプレイ・ディベートと書く活動によって、討論後、他者の視点を得た生徒自身が、より大きな枠組みの中で課題解決を図り、よりよい価値を選び取ろうとする記述を読み取ることができる。このことは、共同的な学習であるロールプレイ・ディベートと、個における

生徒 A

名前プレート 「選手に選ばれて」

私は A君の言い分

クラスみんなの言い分

その理由は 強さのおかげで成績が上がり、それだけ選んで選ばれたことでは、たまたまのりと思っ

1年 組 番 名前

生徒 B

名前プレート 「選手に選ばれて」

私は A君の言い分

クラスみんなの言い分

その理由は 本人が立たないと、言っているんだから、必ず必要はないと思うから、クラスのみんながまた選んだ。

1年 組 番 名前

生徒 A (後)

名前プレート 「選手に選ばれて」

多グループの討論でA君とみんなの立場の両方の立場になって意見を言ったり、聞いたりして、私は、

「みんなの意見もよく聞いて、お互いの意見があることがわかる。多岐にわたって決めたりして、個人的な意見が自分の」

自分の強さで選んで、みんなに選ばれて、と思いました。強さがあるから選んで、みんなに選ばれて、と思いました。学校などの集団生活の中で選手や委員などの役割を決めるときには、どんなことが大切だと感じますか？

多岐にわたって決めると、みんなもよく意見を聞く、と思いました。全体的に意見を聞いて、決めるといいと思います。多岐にわたって決めると、みんなの意見を聞くことで、多岐にわたって決めるといいと思います。強さで決めると、みんなもよく意見を聞く、と思いました。強さで決めると、みんなもよく意見を聞く、と思いました。

1年 組 番 名前

生徒 B (後)

名前プレート 「選手に選ばれて」

多グループの討論でA君とみんなの立場の両方の立場になって意見を言ったり、聞いたりして、私は、

自分の強さで選んで、みんなに選ばれて、と思いました。強さがあるから選んで、みんなに選ばれて、と思いました。学校などの集団生活の中で選手や委員などの役割を決めるときには、どんなことが大切だと感じますか？

・強さで選んで、みんなに選ばれて、と思いました。強さがあるから選んで、みんなに選ばれて、と思いました。学校などの集団生活の中で選手や委員などの役割を決めるときには、どんなことが大切だと感じますか？

・強さで選んで、みんなに選ばれて、と思いました。強さがあるから選んで、みんなに選ばれて、と思いました。学校などの集団生活の中で選手や委員などの役割を決めるときには、どんなことが大切だと感じますか？

1年 組 番 名前

図17 「選手に選ばれて」ワークシート例

学習である書く活動とがバランスよく展開された成果であると考える。

展開後段や終末部分で、いかに道徳的価値の自覚を図るかについては検討の余地があるとしても、求められる価値への方向付けについては、うまく機能していると考える。

(キ) 道徳の時間の分析・考察

秩序を乱すことに葛藤しながらも、兄の生命を救おうとする家族愛について考えさせることをねらいとしている資料「アルメニア大地震『奇跡の生還』」を朗読し、場面や状況を把握したあと、前回と同様な手順で展開における指導過程が構想されている(図18)。

第1学年 道徳学習指導案					
1	日 時	平成17年11月22日(火)	5校時		
2	学年・細	第1学年	細		
3	主 題	4-(6) 家族愛	関連項目	4-(2) 秩序を守る	
4	ね ら い	秩序を乱すことについて葛藤しながらも、兄の命を救おうとするジュリエッタの行爲を通して、深い絆で結ばれている家族の愛情に気づかせる。 「アルメニア大地震『奇跡の生還』」			
5	資料名				
6	主題設定の理由	自己中心的な視野を広げ、異なる意見にも耳を傾けさせるために、結論を1つに導いていくものではなく、異なる価値判断の葛藤の中から個人の考えを深めていく資料を選択した。また、自分の意見を持った上で、コミュニケーション活動を活性化させるための工夫として、ワークシートを利用して「書く」活動を取り入れた。「書く」活動をすることにより、全体の中では意見を表しにくい生徒も意見を言いやすくなる。また、ロールプレイ・ディベートを取り入れ、自分の考えに関係なく立場を決めて考え、意見を言いやすく、活発な話し合いができると思われる。その話し合いの中で、自分とは異なる考え方をする者と意見を比較検討することにより、自分の持つ道徳的価値についての理解を深めることを目標としている。			
7	学習の展開				
		学習活動・○猪聞●中心猪聞 ・予想される生徒の反応	T1の 支援	T2 支援	指導上の留意点 ★評価
導入		1 学習内容を知る。 ○この写真は何の写真でしょうか。 ・地震  ○大きな自然災害によって失われてしまうのは何でしょうか。 ・家、財産 ・人の命、家族 ・秩序 等	・猪聞  ・猪聞	・写真の指示 ・生徒の様子を観察 ・板書	・最近のニュースを取り上げ、身近な問題として考えられるようにする。 ・生徒の意見を目に見えるものと見えないものに分けて板書する。
展開	①	2 資料の朗読を聞き、場面や状況を把握する。 ○ジュリエッタの行動について、どう思うか考えながら聞きましょう。 3 自分の考えをワークシートに記入し、意思表示をする。 ○あなたはジュリエッタの行動を許せますか、許せませんか、その理由とともに書きましょう。  ○それぞれの意見に従ってネームプレートを読みましよう。	・生徒の様子を観察  ・ワークシート記入の指示 ・生徒の記述を読みとり話し合い中の支援のポイントをつかむ。 ・指示	・朗読  ・ワークシート配付  ・判断を迷う生徒への支援	・板書等を工夫し、登場人物を確認する。  ・自分の判断を理由とともに記入させる。  ★自分なりに考え、判断できているか。
	②	4 グループ討論(5人・7人)をする。 ○ジュリエッタの行動を許せる立場の人と、許せない立場の人に別れてグループ討論をしましょう。(※司会役を決め、2～3人ずつが許せる・許せないの立場に分かれて討論を行う。時間は5分程度。最初に1分の伊勢タイムをとる。) ○許せる立場と許せない立場の人が役割を交代してグループ討論をしましょう。	・指示 ・時間を設定する ・板書指導  ・指示	・役割カード配付  ・机間指導	・少人数で討論することで個々の思いが出せるようにする。 ・討論がうまく進まないグループを支援する。  ・「許せる」「許せない」両方の立場に立って考えることができるようにする。
		5 グループ討論を終えてワークシートに記入する。 ○グループ討論を終えて思ったことや考えたことをワークシートに書きましょう。  6 ワークシートに記入した思いや考えを発表する。 ●「許せる」「許せない」両方の立場に立って見て、ジュリエッタはどのような思いでこういう行動に出たのだと思いますか。 ・思いとは思いながらも、それでも兄を助けたかった。 ・例よりも兄の命を一番に考えた。	・指示  ・生徒がワークシートに何を書いているかを読みとり、次の発問の参考にする。  ・猪聞	・ワークシート配付 ・生徒がワークシートに何を書いているかを読みとり、次の発問の参考にする。 ・板書	・思いが書けない生徒がいれば支援する。 ★他の人の意見を参考にしながら、ジュリエッタの行動について考え、家族の愛情に気づくことができたか。  ・いろいろな発言が出ると思うが、ジュリエッタは秩序を守ることと兄に対する愛情の間で揺れ動いたことを理解させる。 ・結論を押しつけることは避ける。
終末		7 教師の話を書く。	・説話	・生徒の様子を観察	

図18 第1学年学習指導案「アルメニア大地震『奇跡の生還』」

前回においては、ロールプレイ・ディベートを進める際、司会者がどのように進めればよいか戸惑いが見られた。そのために、今回はその反省を生かし、図19に見られるような「司会者の役割」を司会役を明示した。これは、議論の焦点化と生徒の選好に対する理由付けの明確化を図るものであった。

生徒は、生徒C、生徒Dのワークシートの

### 生徒C

課題ワークシート 「アルメニア大地震<奇蹟の生還>」

★私はジュリエッタの行動を

許せる  許せない  
と思えます

その理由は  
いきなりには、しかならないと思う。

ア

続くロールプレイ・ディベートと書く活動によって、ここでも他者の視点を得て生徒自身がより大きな枠組みの中で課題解決を図ろうとする記述（生徒E、生徒F）を読み取ることができる。決して葛藤が治まっているわ

### 生徒E

★他の人の意見を聞いた上で、私は、ジュリエッタは

アリスさんみたいなのを助けたい。

という思いで、こういう行動に出たのだと思います。

ジュリエッタの行動に対して思ったこと・考えたことは

最初は、姉妹ジュリエッタが悲しいと思ったけど、  
話し合ったら「自分だけでジュリエッタを助けたら」と  
聞かれて、早くかした父を助けることもできたらいいな  
と思った。  
でも、ジュリエッタのわたこしは、よくない  
と思った。

ように、主人公ジュリエッタの行動を「許せる」とする立場と、「許せない」とする立場が、ほぼ半々に分かれていた。「許せる」、また「許せない」理由としては、ジュリエッタ個人に寄り添う形で同情して「許せる」とする考えと、形式的な正義感や公平感をもって「許せない」とする考えであった。

### 生徒D

課題ワークシート 「アルメニア大地震<奇蹟の生還>」

★私はジュリエッタの行動を

許せる  許せない  
と思えます

その理由は  
アリスさんみたいな人はたくさんいるので、自分の  
兄だけ助けようとするのはいけないと思う。

です。

けではないが、自己と他者（周囲）の思いや考えを斟酌し、解決の手だてではないか、よりよい道徳的価値を模索する様子を伺うことができた。

### 生徒F

★他の人の意見を聞いた上で、私は、ジュリエッタは

兄を助けたい。

という思いで、こういう行動に出たのだと思います。

ジュリエッタの行動に対して思ったこと・考えたことは

もう許せるという人も許せないという人も人それぞれだけど、私の場合は「1つの星のかけらを見捨ててほしくない。この人達をどうにかしてほしい。」じゃなくて「1人1人が新しい自分を作って、誰かを支えてあげよう」と思っています。  
最初は許せないと思ってたけど、やっぱり思ったら許せると思ってました。

ロールプレイ・ディベートにおける議論の焦点化や立場の理由付けという視点から授業が展開されたために、道徳的価値を論理的かつ理性的な部分から導くのか、感性的かつ情緒的な部分に訴えるのか、そこでのちがいをどのように展開後段や終末部分で、道徳的価値の自覚に結び付けるか等について明確に示すことができなかった。

授業のなかでは、生徒個々の発達段階を踏まえながら、道徳的判断力や道徳的心情等の

視点を明確にしつつ、人間としての生き方についての自覚を深め、どのように統合的に道徳的実践力を育成するかが問われている。

書く活動は、ロールプレイ・ディベートにおいて、授業のねらいをどのように方向付けるかといった舵取りを可能にするとともに、動作化や役割演技などの体験活動を、活動のみで終わらせないための役割を担っていると考える。

司会者

「初めに、ジュリエッタのやったことは許せない行動だという立場の人が意見を言ってください。」

(順番に指名する)

「次に、それに対してジュリエッタの行動は仕方がなかったんだ、許せるよという立場の人は、反論し、許せない立場の人たちを理由付けして説得を試みてください。」

(順番に指名する)

(許せない立場の人へ)

「今の意見を聞いて納得しましたか。」

「許せない立場の人も、これに対して反論し、許せるという立場の人を理由付けして説得を試みてください。」

(繰り返して、できるだけ議論の焦点を絞って(何が問題なのかを明確にして)ディベートを継続させてください。)

司会者はディベートを進めながら、時折「なぜ、そう思いましたか」という問いをはさみ、理由付けを明確にさせてください。

図19 ディベートにおける司会の役割

エ 本実践事例に係る成果と課題

(ア) コミュニケーション活動と道徳の時間との関係について

今回のB中学校における取組は、コミュニケーション活動を基盤として他者とのかかわりを深める道徳の時間の充実を志向したものであった。具体的には、道徳の時間にコミュニケーション活動に係る役割演技やディベート等の手だてを指導過程の中に組み入れることによって、道徳の時間そのものの活性化をねらった。

しかし、事例の中に提示したロールプレイ・ディベートは、その手法のみに終始してしまえば、道徳の時間における本来のねらいを達成することはできない。したがって、道徳の時間において役割演技、ディベート等の体験活動を指導法としてどのように生かすか、どのような点に配慮するかという点については、今後の大きな課題である。

B中学校の場合、今年度は研究の出発点であり、その意味では、書く活動に視点を当てた研究は、道徳の時間の活性化に向けた突破

口としての成果があったと考える。

#### (イ) コミュニケーション活動の位置付け

##### - クロスカリキュラムの発想 -

コミュニケーション活動は、必ずしも道德の時間に特化されるものではない。各教科・各領域・特別活動・総合的な学習の時間等を含めて、コミュニケーション活動への取組が、学校の教育活動全体を通して、段階的・発展的に仕組まれていく方が組み込まれていけば、道德の時間のねらいに即してコミュニケーション活動の各々の手だてがより一層活かされると考える。その視点に立つとき、各教科・各領域・特別活動・総合的な学習の時間等で具体的にどのような道德性を育ていこうとするのか、というクロスカリキュラム的な発想が、とりわけ教科担任制をとっている中学校では必要であると考えられる。

このような取組に基づいてこそ、「道德の時間以外における道德教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって、それらを補充、深化、統合」するという道德の時間の目標を体現していくように思われる。

## 研究のまとめ

本研究においては、書く活動に視点を当て、ワークシートや「心のノート」等を活用し、道德の時間における指導過程や指導方法の改善・充実を目指してきた。書く活動を取り入れることによって、次のような成果と課題があった。

### 1 成果

- ・ 書く活動を指導過程において役割演技やディベート等の体験活動の前後に位置付けることによって、体験活動についてのねらいや意図などを児童生徒自身が理解し、実施することができた。言い換えれば、体験

活動を道德の時間のねらいに即して進めることを可能にした。

- ・ 書く活動を取り入れることによって、「資料を基にしたねらいとする道德的価値の追求」や「自己を振り返ることによる道德的価値の自覚」に対して、教師が指導過程の中で中心発問を明確化することができた。
- ・ 書く活動を取り入れることによって、児童生徒は自らの思いや考えを素直に言語化して、再構成することができたと同時に、それをもとに他の生徒と意欲的にコミュニケーション活動に関わることができた。
- ・ 書く活動を取り入れることによって、教師は児童生徒自身の考えや思いを把握して児童生徒の道德性を評価する際の有力な資料とするとともに、机間指導や事後指導に生かすことができた。
- ・ 書く活動を取り入れ、それを蓄積することによって、指導の時間においても、また、その後の学習においても、児童生徒自らの思いや考えの変容を自分自身が把握することができた。また、学級通信や教室掲示等、他の表現媒体を用いて新たなコミュニケーション活動を展開することができた。

書く活動は、言うまでもなく目新しいものではない。しかし、授業の中での裁量が広範にわたることを勘案するならば、書く活動についての課題もあるが、児童生徒理解に基づいて、道德の時間における指導と評価を進めようとする場面や発達段階を踏まえて、自らの思いや考えを整理し、披瀝する手段を求め場面において書く活動を取り入れる意義は十分あると考える。

## 2 課題

- ・ 書く活動は、「何をどのように書かせるのか」ということが根本的な課題として浮上してくる。それは、道徳の時間の指導過程の中で、資料をどのように分析し、どのような切り口で発問するのかが問われている。書く活動を仕組む際において、資料と児童生徒との出会わせ方や、道徳的価値の内面化に向けての視点を明確にしていくことが求められると考える。
- ・ 指導過程の中で、書く活動と体験活動等の諸活動との関連をどう図るかということが問われる。それは、授業のマネジメントの問題でもあるが、書く活動とその他の諸活動が有機的に構造化されていなければ、書く活動の必要性を失ってしまうことになる。児童生徒にとっては、書く活動の必然性がある、初めて言語化を促すことになる。
- ・ 書く活動に視点を当てて、道徳の時間における指導方法の改善を進めていくとき、書く活動を評価活動にどのように生かすかということが問われてくる。現段階では、書く活動が指導にどのように生かされているか、あるいは、どのような手だてが必要だったのかなど、具体的な評価を行うまでには至っていない。道徳教育における評価が、教科指導とは異なる性質をもつことを踏まえつつ、書く活動についての評価も目安となるものが必要となる。換言すれば、書く活動における評価基準や評価規準に当たるものが求められてしかるべきである。  
そのためには、教師自身の道徳的価値に対する類型化の視点も視野に入れて指導することが必要となる。
- ・ 実践研究の途上で出てきた課題であるが、発達段階を踏まえながらも、発言することも書くことも、自己の思いや考えを表出す

ること自体に課題を抱えている児童生徒の存在を見逃すことはできない。道徳の時間だけの課題であると断言することはできないが、支持的な学級風土づくりとともに、教育相談的なアプローチなどトータルな「心の耕し」が必要である。

書く活動は、児童生徒の思いや考えを表出するに留まるものではない。児童生徒は資料と対峙し、仲間と対話を進めることによって、自ら言葉や文を紡ぎ出している。それは、対象に自我関与させることによって行われる、自ら「物語る」行為なのである。そして、この行為は児童生徒自身が所与の世界を理解し、解釈する道程と考える。

人類の文化や歴史がそうした営みの上に築かれてきたことを踏まえ、児童生徒の書く活動が「物語る」行為や生徒個々の世界解釈に結びつけられるとき、書く活動の世界は大きな広がりや意味を獲得することになると考える。

書く活動は、ポートフォリオといわれる蓄積とともに、日記や自分史等へと展開する契機を含むことになる。そうした展望を持つことによって、書く活動の捉えや意味も一層深まることになる。

今回の研究の成果と課題を踏まえ、今後子どもたちの豊かな心をはぐくむために、道徳の時間の指導における書く活動に着目し、道徳の時間の指導について改善・充実の方策を探っていきたい。

## 参考文献

広島市立日浦小学校「平成17年度研究紀要」,「学習指導案集」 2005

広島市立早稲田中学校「平成17年度広島県道徳教育実践研究指定校 道徳教育公開研究会要項」 2005

『小学校学習指導要領解説 - 道徳 - 』文  
部省，1999.5

『中学校学習指導要領(平成10年12月)解  
説 - 道徳 - 』文部省，1999.9

品川利枝著『中学校・道徳授業の新機  
軸』東信堂，2002

勝部真長・宮地忠雄・竹ノ内一郎編著  
『小学校実践力を育てる道徳授業』東京書  
籍，1980

瀬戸 真編著『新しい授業の創り方講座  
第6巻 道徳性の育成を目指す授業実践の  
改革』第一法規，1991

「さあ，道徳の授業をはじめよう！～道  
徳授業の基本と心にひびく工夫～」長崎県  
教育センター，2004

押谷由夫・宮川八岐編『重要用語300の  
基礎知識 12巻 道徳・特別活動重要用語3  
00の基礎知識』明治図書，2000(徳永悦郎)

マネジメント研修カリキュラム等開発会  
議制作『学校組織マネジメント研修～すべ  
ての教職員のために～(モデル・カリキュ  
ラム)』文部科学省，2005.2

#### 大学指導教官

広島大学大学院教育学研究科

助教授 朝倉 淳

#### 研究協力校

広島市立日浦小学校

校長 福本 洋雄

研究協力推進代表者 教諭 鹿渡由美子

広島市立早稲田中学校

校長 神津 住男

研究協力推進代表者 教諭 中山 由可